

<事業名> 講談・落語でりくを語り継ぐ

団体名	大石りくを語り継ぐ実行委員会
所在地	豊岡市
代表者名	中嶋洋二郎

事業内容	<p>大石内蔵助の妻大石りくのことをより知ってもらうため、大石りくが生まれ育った豊岡で、講談と落語で語り継ぐ。</p> <p>日時 令和3年12月12日(日) 14時～16時(13時30分開場)</p> <p>場所 豊岡コミュニティセンターほか</p> <p>内容 □講談公演</p> <p>出演者 玉田玉秀斎(4代目 講談師) 玉田 玉山(講談師 養父市出身)</p> <p>前説 桂ぎん次郎(落語家)</p> <p>ご案内 桂さん太郎(落語家)</p> <p>題目 理玖女・京極家ゆかりの地で聴く 「忠臣蔵」と新作「大石りく」vol2</p> <p>参集者 71名</p> <p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、地域を明るく元気にすること。 ・日本の古典芸能である講談・落語を通して、大石りくの遺徳と顕彰を後世に語り継ぐこと。 ・この機会を活用して老若男女が集える場づくりとすると共に、講談を楽しみつつ、地域の活性化と交流活動に寄与すること。 ・りくが暮らした豊岡を落語家の案内を通して再認識していただいた。 	
	地域	豊岡市
事業の効果	<p>1 団体(組織)内の効果</p> <p>コロナ禍で大笑いする落語は控えめに、小笑いの講談を主として開催したことは、人数の制限や感染防止対策と合わせて徹底でき、講談では大石りくの嫁入りの様子や内蔵助との幸せな日々を語り継いで頂いた。積極に取り組む姿勢が重要であることを再確認できた。</p> <p>2 地域への効果</p> <p>地元でりくを語り継ぐことで、専門職大学での忠臣蔵の公演や、市民の有志が「大石吉之進の会」(りくの次男)を発足するなど、大石りくの生誕地を再認識していただいている。</p> <p>コロナ禍で沈みがちな地域の活力を呼び起こす効果・きっかけになっていると思われる。</p>	
事業経過	<p>3年7月8日</p> <p>3年8月20日</p> <p>3年9月6日</p> <p>3年9月10日</p> <p>3年9月21日</p> <p>3年10月1日</p> <p>3年12月7日</p> <p>3年12月12日</p> <p>4年1月20日</p> <p>4年2月28日</p>	<p>業計画協議：実行委員会(市民プラザ)</p> <p>りく生誕地看板改修(豊田区：対象外)</p> <p>進捗状況調査有(9/7報告)</p> <p>講談開催に向けた具体化協議・調整(宵田)</p> <p>講談開催に向けた具体化協議・調整(メール)</p> <p>ポスターチラシのデザイン調整(メール)</p> <p>事業計画(講談公演)事業推進協議：実行委員会(稽古堂)</p> <p>公演開演日(豊岡コミュニティセンター)</p> <p>事業の反省と今後の方向性協議(専門職大学…コロナ感染拡大で書類協議)</p> <p>事業終了(精算・報告書作成等)</p>

協働の相手方	宵田元町地域まちなか再生協議会、一般社団法人日本落語振興協会、大石りく奉賛会、カバンストリート、豊岡コミュニティ 31、豊岡観光協会
今後の課題等	<p>〈事業を実施する上での課題〉</p> <p>1 団体（組織）の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コツコツと派手さはないが“大石りくの遺徳と顕彰”を持続的に語り継ぐことは、大石りくの種火を消さない大きな使命でもある。市民団体や、大学でのりくに関わるイベントや事業が行われるようになってきたが、資金難や語り部、人材育成などの課題は多い。 <p>2 地域の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でイベント開催が厳しい中で講談師、落語家を活用して地域を明るくできたのは良かった。地域団体や大学での忠臣蔵やりくゆかりの活動がみられてきたので、今後はいかに連携して地域の人々の輪を広げて活性化できるかが課題である。 ・豊岡の誇りでもある大石りく・その時代背景で現在のまちづくりを進めてきた京極家の歴史を生かして、全国で展開されている「藩校サミット」や「義士サミット」の開催を見据えたエネルギーの蓄積ができるかが課題である。 <p>〈4年度以降の事業計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働体制を維持し、大石りくを語り継ぐ事業をさらに充実して「継続は力なり」を基軸にして地域づくりにつながるような開催に向けて、事業計画の協議を進めたい。

3年12月12日 講談会の様子

